

今週の 視点 論点

西 日本を中心に発生したこのたびの豪雨により犠牲となった方々に、深くお悔やみ申し上げるとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

6月末から7月にかけて西日本を中心とする広い範囲で発生した記録的な豪雨（気象庁は「平成30年7月豪雨」と命名）は、各地に甚大な被害をもたらした。200人を超える尊い命が奪われ、多くの市町村で住宅被害も発生した。

今回の豪雨災害は、岡山県倉敷市の小学校を卒業し、中学・高校時代の

を広島県福山市で過ごした筆者にとって、まさに地元が大きな被害を受けた災害となった。よく知る土地の変わり果てた姿は、すぐに理解することができなかったほどのショックであった。このような広範囲かつ大きな被害を踏まえ、激甚災害への指定が閣議決定された。これにより、災害復旧に要する費用について国の手厚い補填が確保されたことは、今後の復興に向けた第一歩となる。

西日本豪雨は、本コラムで筆者がテーマとする農林水産業分野にも大きな被害をもたらした。農林水産省によると、農林水産業に関する被害額は判明しているだけでも約1200億円に上るといわれる。栽培中の農産物の被害に加え、温室設備・農機・用水路などの設備・インフラも甚大な損害を受けた。この数字は特に被害の大きかった岡山県や広島県の状況を十分に把握できていない段階での暫定値のため、さらに被害額は膨らんでしまうだろう。また、西日本の農産物の産地が広範囲に被害を受けたこと、そして物流網が寸断されてしまったこと、さらにはその後の全国的な記録的猛暑といった複合的要因により、小売店の店頭に

災害と地域農業の難しい関係性



三輪 泰史
日本総合研究所 創発戦略センター
エキスパート

みわ・やすふみ
1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。今年7月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。著書に「IoTが拓く次世代農業 ―アグリカルチャー4.0の時代―」（日刊工業新聞社、共著）など。

並ぶ野菜の価格も上がっている。

歴史的に見ても、農業と水というのは切っても切れない関係にある。全国各地の稲作が盛んな平坦な農地は、河川の氾濫との戦いを繰り返してきた。一方で、今回被害の大きかった広島県や岡山県などの瀬戸内海地域は、本来は年間降水量が少なく、むしろ水不足に苦しんでいた地域である。先人たちがため池を設置し、何とか夏季の農業用水を確保してきたのである。

ところが、今回の豪雨ではそのような水不足地域で想定を超える大量の雨が降り、河川が氾濫してしまった。農業用のため池の被害も甚大で、500カ所以上が決壊、一部損壊したという。決壊したため池から流出した水や土砂が住宅地や農地に流れ込むという災害の連鎖も発生してし

まった。古くから水を確保するためのインフラ整備を行ってきた地域が、治水の観点では弱点を抱えているのは致し方ない面もあるだろう。

河川沿いや海沿いの農地は、古くから河川の氾濫や津波の際の緩衝地帯（バッファー）としての役割を与えられてきた。筆者は東日本大震災の際、農水省の宮城・岩手・福島の農業の復旧・復興のための有識者委員会の委員を務めた。津波被害の大きかった地域の農業再生プランでは、海岸線の堤防の後ろに農地を整備し、さらにその先に第2堤防を設けた上で住宅地を整備するといった工夫を施している。

今回の西日本豪雨では各地の農地の水害低減機能が十分な効果を発揮できないほど、短期間で猛烈な降雨があったことを意味している。世界

的な異常気象や温暖化が叫ばれて久しいが、瀬戸内という少雨地域であっても近年は記録的な豪雨が頻発しているのは明らかにその影響であるう。

災害の多い日本では、このような被害が発生したときに、すぐにボランティアの方々が活躍され、また募金活動や寄付も広がるのはすばらしいことだと改めて感じる。Jリーグのサンフレッチェ広島やフアジアーノ岡山、プロ野球の広島東洋カープなどの募金活動、地元出身の芸能人の寄付などは全国で報道され、各地の方々の新たな寄付・募金のきっかけにもなっているだろう。私個人としても微力ではあるが、シンクタンカーとして被災地に、そして生まれ育った地元の復興にどのように貢献できるか考え、迅速に行動に移したい。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構代表取締役専務）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信記者）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センター エクスパート）が交代で執筆します。



「どう守る？子どもと地域の安全」

立正大学文学部教授 小宮 信夫氏

講師略歴 1956年、東京生まれ。中央大法学部を経て、英ケンブリッジ大学院犯罪学研究科修了。法務省、国連アジア極東犯罪防止研究所などに勤務後、現在は大学で講義のほか、地域安全マップの考案者として各地で技術指導に当たる。「親子で学ぶ防犯ワークブック」など著書多数。

石見政経懇話会 第253回定例会

日時 8月22日（水） 正午～午後2時
会場 浜田ワシントンホテルプラザ（浜田市黒川町）

石西政経懇話会 第214回定例会

日時 8月23日（木） 正午～午後2時
会場 三好家（益田市幸町）

入会などの問い合わせは山陰中央新報政経懇話会事務局（☎0852・32・3477）、またはHPをご覧ください。